



後  
 然  
 常  
 法  
 解  
 角  
 三





定家卿ノ弟子ナリ  
辨ハシ登ト弁

實サ氏シ云ク也ヲ西園寺ノ流レ奇ク人ナリ



徒然草ツレズナ諺解ワカ卷三

辨ハシ登ト弁ノ相タ圃ノ出シ仕ト

2. 物モノ持テ持テ小面コオモあヒまリて馬ウマよりウりケつケも

相圃ソウボ。後ノチ水ミヅ面オモちニじシ。初ハジメ書カキをヲ持テちシ。ト馬ウマ志シ結ム

り者モノなり。ナホトシ直ラ知マ者ナリ君キミよリつキすマ信マちシいハべ

まととトされレれハ小面コオモとトなられルり。物モノ持テちシもノ

上ウちウぐク持テてテ名ナ世セをヲまじへシ。あハいハいハいハいハいハいハいハ

物モノ持テちシもノ緒オモとトつクこと。つクことニつクけケつク人ヒトまじ

そこ。あハいハいハいハいハいハいハいハいハいハいハいハいハいハ

帝ミカドよリつクこと。あハいハいハいハいハいハいハいハいハいハいハいハ

は段次実ラ記ノ人ニ教ユ又ツ云相圃ノ我ラニ云テ向ニ君ニ忠ヌ知テ誠ヲモ褒美ノ記ス者ナリ

ハ右ノ方ヲ指ス卷物ノノ上ニ

左ノ方ヲ指ス



たかく右よははる。ちかまははるもつじのこころ  
と。たしせらふと云。故に必一偏に不可得し教也

ゆふむし 説く多し其中に射耳上云説可  
尤カ 本草曰蒼耳治毒地并射士傷

癩癬一搗研取汁和温酒而灌之性燥  
厚卷傷也

又地菘ヲモメトモトヨ俗ニイフ草モ去カ  
狂知人ニ可也

ちん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。

此段モ兼好慈悲ノ心ヲ以テ爰ニ記シ万人ニ知ラセ  
秘事ノ人ニ不教ケヤウノ人ヲ戒メ此段ト見ル也

ま物よつてまそ。ま物をついやくとこるま物。教をまらぬ

あり。身に虱あり。あま鼻あり。國に賊あり。小人に

小人財 小人ハ一向ニ財宝ヲ求メ其ノ為ニカ  
ソナラ財宝何ノ為ニ皆我身ヲ為メ求メテ却テ

財あり。君子も仁義あり

身ヲ破

君子仁義 爰ハ例ニ兼好ノム処ノ老莊ノ  
道ヲ以テスルナリ仁義ハ大道ノ廢レタルヨリ起ル上テ仁義ノ名ノ無キ以前ノ虚無自然ノ道ヲ貴ヤリ

故ニ爰ニ君子ハ仁義ヲ求メテ却テ眞實ノ道ヲ破ル上テ此ノ前ニ誠ノ人ハ智モナク徳モナク名モナク  
云処ヲ以テ此ノ心ヲ可知  
僧ハ法あり 僧ハ法アルニテソツ出レソノ法ニ仰テ其ヲ真ノ佛道ニ迷フ維摩經ニ法猶可捨アリ

然レ其ノ法ヲ求ムテ却テ眞道ヲソナラシムル此ノ前ニ是法法師カ字匠ヲ立スニテ安ラカニ念佛シテ  
ヲ好ミテ此段ヲモ可見也

一言芳談 教行アリ聖ハ誰モナレモコレノ  
辭ヲ一向ニ載セタルモノナリ故ニ一言上云芳ハ褒美ノ

字談ニ談話ナリ爰ノ詞ニ一言芳談ハ少シ連  
テ兼好ノソナラズレト云

わんまづひくさる草子とん信しよふよあひてそそ

事と云

上志やせぬ せむやあし海とあるるら。たむらう

せぬハよたなり

疑

清

疑

大カクテリ

一 後世と云ふ人者ハ 糝杖 唐奉天糝杖 子川是俊 桑房ノ辞 若談是 龍上人ノ辞 糝杖也。 糝杖 糝杖ノミ 糝杖也。 糝杖 糝杖ノミ 糝杖也。

一 道世者ハ 「物モ求メテハ其ノカクシキモ求ム心ヲノカシテモカクハハハ」 道世者也。 「思量ノ量」 道世者也。

一 最上ノ 「是レ最上ノヤツト」 最上ノ者也。 「至極」 最上ノ者也。

一 上臈ハ下臈ヨリ 「初者ハ臈者ヨリ」 上臈ハ下臈ヨリ。 「臈ハ臈」 上臈ハ下臈ヨリ。

一 能アリ。能アリ人ハ 「是レ能」 能アリ。能アリ人ハ。 「能」 能アリ。能アリ人ハ。

一 是ハ松陰ノ 「上臈ハ 我カ位ニホコニス 謙遜ノ下 臈ニクナリ 智者ハ 智ヲ自 慢セスノ愚者ニナリ 徳人ハ 其ノ富ニ着セス 臈ニ自慢ノ念ヲ起サス無能ニナリ」 是ハ松陰ノ。 「臈ハ 職原抄ニ 初臈ヨリハ 位階ノ名ナリ 臈 次ト云モ 物ノ次第スルヲ云ハハ 上臈下臈ハ 上位下位ト云ハント同ト也」 是ハ松陰ノ。

一 佛道とね 「世同ノ交ラカモ心ニカケス」 佛道とね。 「諸縁ヲ放ス」 佛道とね。

一 世同ノ交 「世同ノ交ラカモ心ニカケス」 世同ノ交。 「是レ行仙房ノ 辞」 世同ノ交。

一 此外も 「爰ヲハテ見ル兼好空ニ 覺テ書ル者 上ニ 此段モ前段ヲ受テ 道世用ノ 上」 此外も。 「爰ヲハテ見ル兼好空ニ 覺テ書ル者 上ニ 此段モ前段ヲ受テ 道世用ノ 上」 此外も。

一 堀川相國ハ 「基具云々 岩倉内府具實公ノ男」 堀川相國ハ。 「美男」 堀川相國ハ。

一 美男ハ 「美色ヲ好シ 美色ヲ好シ 兩義」 美男ハ。 「美色ヲ好シ 美色ヲ好シ 兩義」 美男ハ。

一 大理 「檢非違使ノ別當ノ唐名ナリ」 大理。 「檢非違使ノ別當ノ唐名ナリ」 大理。

一 職原曰 「檢非違使 此謂 淳和天皇 御宇 天長年中 初テ置テ 異朝尤モ 重テ甚 唐虞代ニ 皋陶為士 此云 大理 周礼立 官日 大司寇 即此任也」 職原曰。 「檢非違使 此謂 淳和天皇 御宇 天長年中 初テ置テ 異朝尤モ 重テ甚 唐虞代ニ 皋陶為士 此云 大理 周礼立 官日 大司寇 即此任也」 職原曰。

一 九ッ此ノ大理ノ職ハ 「追捕 糝杖 京洛ノ此 詔トモニ并テ職之ヲ」 九ッ此ノ大理ノ職ハ。 「追捕 糝杖 京洛ノ此 詔トモニ并テ職之ヲ」 九ッ此ノ大理ノ職ハ。

一 廳務 「檢非違使ノ政ヲ 聞ク所ナリ」 廳務。 「檢非違使ノ政ヲ 聞ク所ナリ」 廳務。

一 古弊 「フルクヤルナリ」 古弊。 「フルクヤルナリ」 古弊。

一 規模 「規ハ 田ノ物ヲ作ルニ 比シ 模ハ 形ノ物ヲ 作ルニ 比シ 爰ハ 半本ト云心ナリ」 規模。 「規ハ 田ノ物ヲ作ルニ 比シ 模ハ 形ノ物ヲ 作ルニ 比シ 爰ハ 半本ト云心ナリ」 規模。

一 是ハ 「是ハ 糝杖 糝杖ノミ」 是ハ。 「是ハ 糝杖 糝杖ノミ」 是ハ。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

一 糝杖 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。 「糝杖 糝杖ノミ」 糝杖。

とあるべ。數百年と強ゆり。累代の公物。古弊とありて  
ハレタイ 規模とす。之をよきあらしむるにあらざり。故實の  
ミラカサレ 徳官等、ヨホヤチノルモ 先づこれに  
モツコヘ 我おほひぬ上りて、ツカサ 雅實公より六条大官、モツコヘ 房公御史  
モツコヘ ともりしれ。海らまるとまると勢をよそ。海ら

とありしれ。海らまるとまると勢をよそ。海ら  
モツコヘ 海らまるとまると勢をよそ。海ら  
モツコヘ 海らまるとまると勢をよそ。海ら

海らまるとまると勢をよそ。海ら  
モツコヘ 海らまるとまると勢をよそ。海ら  
モツコヘ 海らまるとまると勢をよそ。海ら

内弁才三、大官於門外弁條諸事、故云外弁

内記のつら宣命 内記職原儒門中

堪文筆者、後より宣命の草案ヲ調  
 ル役ナリ 宣命ハ其ノ人ヲ大官ニ任セラルト  
 云ノ宣命ナリ 此次第ハ先ツ上卿勅ヲ承テ  
 内記ニ宣命ヲ作ラシメ、又 草ヲ奏シ、又 清  
 書ヲ奏スル 初内記及至五ノ節、又 時内  
 記其ノ宣命ヲ持テ座ニ候スルナリ 其レハ内弁ノ  
 大官取リテ、又 持テテ堂上セラルナリ  
 康綱 中原ノ康綱正六位上權大外記歷  
 徳治以來五代、又 從五位下日向守源、又 重尚  
 男云

一 かりきり 以段ハ右ノ如キ也、又 礼ノ時、又 早速ノ才、又 覺ノ神妙、又 一ノ速ナリ

判大納言 光忠入道 治雄の正所と法とありしは、又 治雄

洞院 右大臣 殿下 治雄の正所と法とありしは、又 治雄

堂上せしむるも、又 堂上せしむるも、又 堂上せしむるも

堂上せしむるも、又 堂上せしむるも、又 堂上せしむるも  
 堂上せしむるも、又 堂上せしむるも、又 堂上せしむるも  
 堂上せしむるも、又 堂上せしむるも、又 堂上せしむるも

治雄の正所と法とありしは、又 治雄

治雄の正所と法とありしは、又 治雄

と師とすより外の。才えひりとぞのしほひる  
安泰心此又五郎ハ松平スルヲニシテ者ハ大故安ハカク其夏ニシテ者ヲ仰トセラレヨリトテ描画  
皮又五郎ハ老る侍士のよくおびりよなまて者  
是ヲ兼好ノ辞  
侍士衛門兵衛ノ披官ヲ衛士ト云林業トシテ  
火ヲ焼ク者トシテカキ守侍士ト云トヨリ

志多ひける時。ひさつきと志多て外記とめされぬ  
是ヲ又別トシ又五郎カカクニシテ者ヲ仰トセラレヨリトテ描画  
ひさつき 膝突ト云ナリ小半忍ノウスレ  
戦ノ字ヲ用ル悪ト戦ハ和名ニ車前ナリト  
車ノトビキミトヨリ

又五郎推量ノ著陣ノ何ノ外記ヲ云ハニサツキ  
ヲ志テ其ノ為ニ召サルナニトツラキ是モムコトナシ故ニ早速ニ心付テノ寝美  
忍ひやにけりやきさる。いとわろかりかり  
又五郎ノ推量ノ著陣ノ何ノ外記ヲ云ハニサツキ  
ヲ志テ其ノ為ニ召サルナニトツラキ是モムコトナシ故ニ早速ニ心付テノ寝美

後宇多院ナリ  
大覚寺ぬそ。近習の人とも。ちまくと流るうて  
後宇多院ナリ  
大覚寺ぬそ。近習の人とも。ちまくと流るうて

忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も  
忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も

忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も  
忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も

忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も  
忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も

忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も  
忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も

忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も  
忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も

忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も  
忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も

忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も  
忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も

忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も  
忠守 丹家康頼十一世忠守典  
守ありありけるに。侍従大  
納言公の所。我朝の者も



ひらきゆく夜明かて透間人多多丸之

忘るる事ごとくいひて

立おぼろけの梢も夜もつゆのまじりて

知月さうり此あけのえんよちかきと

がわして植の木のお月まきかきと

今もえとらり終つて

桂木 其時の風情ノ志難クバ其家ノホトリニ桂ノ木ノ大ナラ昔ノ名残今ニ思ヒ出ルナリ

源氏花ちりし 花はさきさきとわたりて

又菅家の御方ニ 君ガスノヤドノ梢ヲユクモカクルトモカケリニハヤ此奇ノ心ニコモリテ

あけの月さやうなれどもくまもくはあはぬ人ぞ

あはれかゝる御堂の廊

くはらくハ 未後ナドノ体カ又月ハ明ナレ

あはれかゝる御堂の廊

あはれかゝる御堂の廊

あはれかゝる御堂の廊

あはれかゝる御堂の廊

あはれかゝる御堂の廊

あはれかゝる御堂の廊

あはれかゝる御堂の廊

あはれかゝる御堂の廊

あはれかゝる御堂の廊

三

二

一



うりもろが。くらひまひる男。まーくひまて聖のる

と添へた。てり聖いとさうあーくさめて。こ

希有の狼藉セチれ。四部シベの弟子デシはすれ。比丘ヒクより比丘ヒク

尼ニはれり。比丘ヒク尼ニより優婆ウパ

塞サイはれり。うんそりより

優婆ウパ塞サイはれり。これ

比丘ヒクと塔トクへ踏フミ入イる。妹イモ

曾ソウ看カン乃ノ忍ニン約ヤクたりといふれれば。はひまはれ男オトコのふた

むせううやん。えんをいふ。よんをい

三十九 狼藉 藉ハ踏ヲ狼ノ如クフミテスルニ名ヲ

四部弟子 比丘比丘尼優婆塞優婆塞也

佛弟子 佛弟子沙門上尼俗男俗女也

雜譯名義集 比丘名之士清淨海命故

比丘尼通 比丘尼得無量律儀故

應次 比丘優婆塞名信士男優婆塞名

信士女 又云清淨士清淨女雜在居家持五

戒 男女不同宿故云善宿男女

源氏物語 源氏物語二乃ぞんぐいさ

息巻 息巻ト云

非修非字 道ヲモ修セス道同ヲモセラズ

非修非字 道ヲモ修セス道同ヲモセラズ

非修非字 道ヲモ修セス道同ヲモセラズ

非修非字 道ヲモ修セス道同ヲモセラズ

非修非字 道ヲモ修セス道同ヲモセラズ

非修非字 道ヲモ修セス道同ヲモセラズ

非修非字 道ヲモ修セス道同ヲモセラズ

まきまきて。何といふを修シユ

非ヒ乃ノ男オトコと。あううふひ

てさへすり。さき放ハク言ゴン志シのと思ひけり。死シ色シキよて馬

引ヒキへしてよき。まにかり。たうらるる。いさうひ

ちうて。は段ハ前ノ二段ニ男オトコ女メタラレノ興キョウ凡ソド体タイラ云クモ爰コトニ證シメ空クウ女メニ向ムカテ火ヒモ愛アイテ者モノト云ク

女メ乃ノ物モノひひけり返カエり。竹タケノ餅モチニタラシカ

る男オトコハもく。た物モノもて。志シ山サン院インの時トキ。志シれり女メ

房フウも。ワも。男オトコ也ナリのま。い。毎ツネ。郭クワク也ナリ。安ヤス孫ソノ

へ。心ココロも。道ミチも。い。大オホ細ホソ言コト。平ヘイ

ハ。教シユも。ぬ。男オトコハ。え。ま。い。と。暮クる。道ミチも。り。塔トク

具守公ナリ後申書王九代孫橋川太政大臣基具自  
内大臣なる。岩倉も笑ていふ。せんとなれせしむる

れける。是れ何れか。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

めあられり。是れ何れか。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

邦下へ。生立上り。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

安土。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

山階。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

心づ。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

衣紋。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

女。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

女。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

女。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

女。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

女。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

女。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

女。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

女。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

女。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

女。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

女。女房を批判す。女房を批判す。女房を批判す。

往來三

ゆるいどあー 我本心明白す何ソカラ  
愛せ唯我心ヲ迷ニテモ随テ時面自カラニト

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

ゆるいどあふー として

して。時をうつるとのささるるを消し。月と面  
て一生を送るをささるるなり。謝靈運は法花乃筆  
交なるし。心つらなる風雲の多しと親せ  
くべ。熱を白蓮乃交とゆるさるるさ

**謝靈運** 南史謝靈運初穎悟文章之美与顔延之為江九才世亦顔謝云  
宋ノ元嘉中為永嘉守郡有各山水肆意遊山陔嶺造峻峻登踐常著木屐  
上山去前齒下山去後齒之  
**筆受** 梵語唐土ニ通交スルノ龍訣ト云ヒ其ラ唐字ニ清書トテカキテスラ筆受ト云ヌ  
運カ法華ノ筆受ト云フニ不審凡ク法華ハ彼是五度ノ龍訣アルヘテ靈運カ筆受ト云フニ  
筆受ノ三體詩ヲ注見タリ但シ法華涅槃同味ノ經ト大涅槃ニ字ヲ法華ト云フ兼好  
心雜知

**風雲の思** 本傳モ凡如何ノ名山名水ニ遊遊ニテ凡雲ノ風景ニ詩賦ヲ詠メ樂メテ云ヒ  
惠遠 釈氏要覽曰晉惠遠法師。廬山人。住廬山虎溪。惠林寺。招賢士。劉遺民。  
宗炳。雷次宗。張野。張詮。周統之等。為會。修西方淨業。彼院多植白蓮。又弥陀佛  
國以蓮華分九品次第接人。故云蓮社。  
白蓮の交 白蓮社上人惠遠カ院ノ多ク事支類聚曰謝靈運求入淨社。遠師以心雜知

扱爰ノ大意ハ晋ノ謝靈運ハ法華ノ筆受シタルホドノ人ナリ心外馳テ風雲ノ思ヲ觀  
陰ヲ惜ニテ眞空ノ道ヲ修スルヲ懈怠スル故ニ惠遠カ蓮社ノ交リヲ求メテ不救トク  
とぞとくし是を死と死に死人のなわち。  
睡眠言語ヲ指シ見ヨトナレ一説ニ發端ノ是ヨク知レカ思立カノ是ノ字ニ耐ノ是ト云ヒ此ノ  
說可也是ナキト此ノ陰ヲ惜ニテ字向修行ノ一モナク益ノ馳スルト其眞ノ道ヲ離レテ心ヲ  
外放ッ故ニ死人ト同トク

光陰何のたれまよとせしむとなく内は思慮なく外は  
世のいふことして止ん人の心へ修せん人の心へ修せん  
かり 此段畢竟前ニ色欲ノヲ去ラズ爰トクニニテ風雲ノ景ヲ心ヲカテテ實理ヲ云ニ人ヲ戒  
心ヲヨク木ニ上ルニ名ヲユル人ナリ  
花木よのびせて花をまらしてにいとあやう  
くみえりわらひもいなせてみらり時よ

新装げり又ならてあやまらすぬらしてた  
 州もさきまどけつと。ふらり又なりて。あ  
 ねももわらんつよくいそと。あ  
 ば。又さきま。あやまらすぬらしてた  
 ぶつたそれつまひ。あやまらすぬらしてた  
 又なりて。あやまらすぬらしてた  
 福もれち聖人のいゆめ。あやまらすぬらしてた  
 聖人のいゆめ。易繫辭曰君子安而不  
 忘危存而不亡治而不乱是以  
 身安國家可保也  
 鞠 古今注黃帝習兵之勢劉向別錄  
 蹴鞠黃帝所造以練武士云  
 日本鞠ノ始ハ用明天皇ノ御宇大唐ヨリ

渡トク

双六 書言故事云烏曹氏作博陸  
 將名也即是双六也

五道 殺父殺母殺阿羅漢破和合僧  
 出佛身血此五逆

前段上同意ナリ  
 双六乃上手といひ一介  
 其終と同作ナリ。カラン  
 首ノ字ヲモ用

圍碁 博物志堯造圍碁以教子丹朱  
 或曰舜以子商均愚故作圍碁教之云  
 四重 五戒内飲酒除テノ四戒ナリ  
 殺生偷盜邪婬妄語也  
 圍碁 雙六好てあー  
 人ハ。圍碁又送にもゆき  
 聖のり。耳より。

傳奕好飲食ヲ不顧父母養ヲ不孝也ナリ

此段ハ前段ニ双六ノ勝負ノコトヲ論究ニ依テ若好ヲ益テカト辞ニ泥シテ本意ヲ失フ  
人アラニカト恐テ好テ益ヲ記スナラシ

明日ハ遠國へもまじくべしと云はん人よ。何の疑ハ

ちまへへしむるは、人いひけりや。俄の去る

ともしもちまへへしむるは、人いひけりや。俄の去る

は、人いひけりや。俄の去る

うけ。病にしまつらむ。況や世もこのごとく

人。又あまにちまへへしむるは、人いひけりや

のまらうかりか。あまにちまへへしむるは、人いひけりや

傳奕三

一三

と云ひて。是と必とせり。秘ひもたぬ。何れも

しく心のいとゆるみち。一生ハ雜事ザクの小節セツ

へらまてしむるは、人いひけりや

吾生既ニ蹉跎あり。徒レ縁ヲ放下セまき時トなり。信

五生既蹉跎。是諸上善人詠白居易傳。日暮

而途ニ遠シ五生已蹉跎ト命ヲナリ

信トしむるは、人いひけりや

彼レ不レ不レナリトテ其レヲモ不レ思トス

此皆諸縁ヲ放下スル目ナリ

此段老人病者道世者ナドノワツカノ一生ノ中ニ

メタル者ハ此前三大ヲ思ヒ立シ人ハサガタキヲステヨ上スルト月ノ如ク

走六二

一三

前記ス人ハ四十有老ノ初也

同ナにいしあまのりぬる人の。色もこころもあつ

忍ひてあまのりぬる人の。色もこころもあつ

人のうへもいひあつてそすけちるるるる

れたるるるるるるるるるるるるるるるる

人よりゆりゆりして。興あつんと相ひひわさる

ぬるるるるるるるるるるるるるるるる

うら。まづしたるるるるるるるるるるる

とききつたきたるるるるるるるるるるる

今も川乃せいのなほ峨峨へちりけり。五梅川乃已

うりよあのおれりるるるるるるるるるる

それがあがたのまお板ぞ

さうとがうまきると。み

津車はあがりよひけり。希

ありたれば。せいのなほ色あ

是車やん事。さいま丸よゆりてえ

希みの男なりとては車よ頭と

にたり。さいま丸ハ太秦ど

の牛飼ぞり。は太

秦ぬよゆりける女房乃

則信清乃名料ノ牛飼ツトナリ

大秦 内大臣信清父中園白隆公ノ後

三テ贈大信隆ノ息ノ防門臣大泰

臣アナリハサイ王丸ハ太秦

則信清乃名料ノ牛飼ツトナリ

有栖川下嵯峨ノ里ハ入ル小川ナリ

京極前太政大臣

千早振御宮ナリス川松ト共ニヤカケハスムベキ

あがき 腕ノ字也 文選東都賦 腕餘足ト

アリ注 屈也ト又字彙曲也トナリ 然大足ヲ折

好色ノ心ナリ

珠文ニズキ好テ日外ニ出テ

本和食

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

物ニウチニ名ヲ付ル

女房名は名一未詳ヲ太秦なる出處ニ

依テメヅラレキ名ヲ好マテ去ラテ記カ

又一説。膝幸特推胞胎乙牛ト云云アリ

ら。一人もととら。とつまらさる

宿カハラ河原杉津園といふとてあそびておあつてあつ

暮露ト書ク用東ニハ是ラ

兼好梵論字漢字ナラ

暮露ノ始ト云ハ庄明惠上人ノ宝蓋有ニ

トテ暮露ノ草紙ト云物アリト云虚空

坊阿弥陀坊ト云者ヲ暮露ノ始ト云

説アリ

九品念佛 念佛阿弥陀不可限然ハ

是ハ弥陀ノ名ヲ唱フ念佛ト云為九品

念佛ト云

名ども。一人ハひびきさる。一人

ハまといつら。一人ハまよま

ら。一人もととら。とつまらさる

ゆりて。九品此念佛と

ト云外より入來ル

おあつての。けし中

ま。いもと。場とが

らわたり。ゆととる

けさば。其中より。いもと。かこの

いもと。かこの

いもと。かこの

いもと。かこの

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

證請ト書クオノ云

愛ヲ脇指太刀ト云説ハ庄如何

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。

いもと。かこの。いもと。かこの。いもと。かこの。



ゆばらりよつぬまあひて昔よ死トり

ちろくといふ者しトなりきりやト世トよ

わんト梵ト字ト漢ト字トなトと云ト者トありトあ

かりき家トとや。世トとてさトにト我ト我トつトく

仏トとわトりト無トて。闘ト争トとトとト。放ト逸ト無ト慙ト

のトよトもトれトも。死トとト輕トしてト少トもトちトびトもトど

るトこト乃トいトきトよトくトおトぼトくトてト人トのトさトりトあトらトよ

くトさトつトもトゆト家トなりト

寺ト院ト乃ト魏トとトぬト家ト乃ト物トにもト名トとトはトくトるトりト。じ

理ト近ト々ト並トテト記ト之ト

此段上ノ女房ノ名ノ不審ナリ依テ又梵論字梵字ナリトテ類ニテ記ス亦ハ其旨露ノ行跡尤モ放逸無慙ナリ師辭

くトのト人トのトさトりトしトもト求トむト。たトあトりトれトまトくトよトきトく

付トけるトなりト。はト比トのトあトくトあトりトオト免トとトあトりトハトさトんトと

あトらトさトりトにトはトあトるト。いトとトむトつト。人トのト名トもトあトれトぬ

又ト字トとトはトりトんトとトもトるト益トとトもトまトなりト。何トるトもトしトめ

つトくトきトもトあトるト。美ト説トとトみトむト。後ト才ト人ト

のトもトあトるト。いトとトむトつト。人トのト名トもトあトれトぬ

此段前ノ段ニ名ノ同工難キヲ答テ爰ニ至テ八九テ物名ハ易ク直チテ是ト云テ遂ニ

友トとトすトるトにト七ト 此段論語ニ益者三友損者

三友ト云ニ本ツキテ云リ

誠ニ朋友ハ五倫ノ一ツヲ相切磋スル道アリ

尤善惡ヲ可レ知也

友トとトすトるトにト七ト 友トとトすトるトにト七ト 者ト七トあり

一トはト信ト不ト信ト自ト分トノト過トヲト不ト忘ト

一トはト信ト不ト信ト自ト分トノト過トヲト不ト忘ト

老人ノ若輩ニ交ルハハルルニ

七

好人五よもめけの身不兵ツギノ六よもんツラノ虚云する人七

よの欲ヨクするき人よき友三あり一よの抱く友二

よのキとよのキ三よのキある友

物ら友 此一ツラ兼好ノ詞ニ難辨上難人アリ其ハ已ニ管見ヲ以テ索白丸胸中ヲ志観ト云ニ依テ也我心至欲テ世利ヲ不貪上ヨリ見ルトキハ物名友ヲヨシトテ明也况ヤ朋友ハ相濟ノミヤラヤ何ッ此一ツラ難センヤ 論語ニ朋友贈ハ難車馬不拜ヨリ 彼是欲心ヲ離テ工夫アルヲキル

鯉コイのあひよの食カる日ハ賢コトそをビとらん膠カウに

賢者そけと 此事本草ニ不見諺ニ云

しほくふ抱カねばり

傳ヘツラニ 膠カウ魚イサヲ膠カウニシラ膠カウ上云項碎録ニ鯉魚

うる抱カよそ。鯉カウけのりこ

そ浄ゼン前ゼンそしさうあ抱カねばやんごとち抱カ魚

なり鳥トリよニ難ナンさうニち抱カなり。難ナン松茸マツタケちと

本草松茸ト云ル

ハ。洗湯セン乃ナよヨ。かカらラるルるルるルるルるルるルるル

心ココロうウらラるルなり。中宮ナカミヤ乃ナ淨ゼン此洗湯セン乃ナよヨとれく

ろとロ棚ナカよヨ鷹トビ乃ナ見ミえエはハ系ケイ

とト心ココロ入イるル夜ヨの浄ゼン後ノチ

てテゆユせセ給キひヒて。屋ヤそソ洗セン久クまマそソきキうウの抱カされ

くクとト染シめて。此棚ナカよヨおオそソひヒ一ヒト半ハ。見ミるルるルるル

るルあアらラるルなり。若ニホぐグくクきキ人ヒトのさサあアらラぬ

ゆユへヘにニそソちチどトとトさサれレうウらラり

音堅大鯛也トアリ又万葉中九ニ水ノ江ノ 本草細目云不分明海蒲心後鯉 浦嶋児ノ堅魚釣ト載レリ込ハ其名ハ上代ヨリ有レ庄貴人ノ食物ト料理スルハ未代

ものにては比もてなむ

物なり。それしかゆるくの年より此の物一は眞  
なるまゝ。うらやましく世傳でい。たゞしく一人の  
前へおまじき結ぶるき。頭へ下初もくらびまゝして  
もてつらうしものなりとよま。やうの物も世の末  
よなれば。上さぬまじも。入ぬのまじも。そつら

前段ヲ承テ鷹ヲサハサアレキトノ玉ヒニ世ノ末ニナカハル物ヲモ上ツ方迄賞賈アルヲ述  
テ上古ノ風ノ替ルヲ顯ス

唐の物。茶の外ハかくともしく海。書きたは必  
よめひろゆるぬれ。たゞ是ヨリ不渡。唐船の  
たやまうぬ道よ。雲月のものたのまことりたて。

おせくわくわくしてら系いとをらなり。まじき

物と寶とせびも。又ぬぐ

と宝をたふともまじき

と久にもゆかとうや

養ひふりのまら牛はちまきく。むふ。そい

ま。け。ま。ど。あ。く。て。ぬ。あ。の。な。れ。ば。い。は。せん。

犬は。あ。り。あ。せ。く。つ。も。人。に。も。ゆ。り。た。ま。げ。必

あ。ま。い。これ。ど。家。毎。よ。あ。ふ。の。な。れ。は。あ。と。さ

よ。め。あ。ら。び。も。ま。り。鄰。家。犬。の。我。力。守。よ。そ。の。ち。の。ち。犬。よ。て

困。ち。ま。き。もの。なり。走。ゆ。獸。へ。い。ら。い。に。あ。あ。ら。り

唐の物と宝

物則遠人格

使民不為盜

養ひふりのまら牛

犬は外又

あまい

よめあらび

困ちまき

尚書旅獒篇云不寶遠物

老子經云不貴難得之貨

は段上ノ段末迄六用アル物ノ多ト云シ承テ遠物ヲ宝トセト云時ハ唐物モ全用ノ由ヲ云

是非ナラズ畜

是非ナラズ畜

是非ナラズ畜

是非ナラズ畜

是非ナラズ畜

唐

唐

唐







初以ちんうへつといひさうしよ。兼好判く愚痴ノ人ハ必ス是等ノ多シ説法イララテ評判アルモ何ノ形ヨリ  
たしうらりたり。さる等師のちやうやハあるま。

又人よ 是ヨリ末錯簡落字アカトクセ  
モ同ク愚人ノ辞ノ不分明ヲ記スナラン

又人よ 内をむしりて

そのまづさへて人よ志おもんとするハ。劔よ

て人辨まうんとするに似るるを二カカ

つさめりおちるればもさる時先我頭とさるあよ

人よえまきあなり。よあまの砕てあま

人ハもあさどらま。劔よてまうらるるを

けりまやいとちりりき。以劔ノ譬ノ辞ハまへタルヤウナレハ九ツ  
前カドニヨク試タルナラテ必ス其ノ

落着ナク短ヲ残ス可ク何ノ思慮ナク劔ノ譬ヲま 若シ其人劔ニテ我頭ヲ切りヨロモ  
タルニヤト辞ヲ賤ノ爰ニ記ス

はらの負まのゆりて。其ノ負ケタル者

せんよあひてハ。其ノ打ケルヲ謂

勝べき時のいぬわるとさるべし。其ノ時

よたごちちうちといふなりとある者尸記

以段轉突ノイラ云テ天地ノ理ハ極ハ必ス亦スルヲ云ヘリ易六十四卦三百八十四タモ時ノ  
字ノ其ノ時ヲ知リテ進退スルヲ道ヲ知ルトハ云ナリサレハ如此ノ上トモ皆天理ノガレヌマ  
ヲ證ノ尚ヲ人ニ時ノ至ルト云フヲ教ユ

あつて益をたすハ。論語魯人長府作ラバ田子騫ノ云ル如ク無益 不可改但し益アリハ改ムレト下心アリ

雅房大納言ハ。其ノ大納言

大將 大納言ハ文官ノ大納言ハ武官ノ大納言ヨリ  
大納言兼官スルヲ手柄トス

近習ノ人雅房ヲ妬テ説スル  
後守多ク院ニ此時後守多ク三院ノハニスナリ

徳三  
世に給けるなり。

つとよされられれば何ぞぞとらひ給けるなり。  
雅房卿タカ鷹タカよらん飼として。いまるる犬のありと  
まうり侍侍ると中垣チカキの宮ミヤより入侍りてと  
されきり。院イノ疎ソゆユくクわワたタけケりて  
素ソの御氣ミキをシたタぐグひヒ果ハせセもモ志シ給キまマさサりリ。  
兼カ好コ判ハノノ殺シ生シヲト戒トム  
さサちチりリのノ人ヒト鷹タカとトもモされレらリけるハ思シまマんンなナ  
れレどド犬イヌのノ足アシハハぬヌちチるルさサりリくク。虚ウソ言コトハハふフ便ビちチられレどド  
かカふフこコとトとトさサるルせセ給キひヒてテもモせセ給キひヒけるル君キミ  
此コノ心ココロいとイたタうウとトさサるルなりナリ。大オホいイけるル物モノ  
たタうウとトさサるル万物マンブツ同ドウ根ネ一イツ体テイとト生シララ見ミテ  
爰ココにニ死シヲト憫ミハハ仁ニノノ處トニニ存ゾノノ宣ノ王ノ牛ノヲ  
とトころロ一イツいイまマたタくク  
或アルはハ切キ足ソクヲト活カクス  
關クワン雞ニ圖ト狗ノ類ノ

タスケ指宗ノ蝶ニ水ヲカケ玉ハヌモ同ク一ナリ

まん人ハ畜生チクシヤウ殘害ザンガイノ類ノなりナリ。夢ユメの鳥トリ歎ナゲちチいイ  
まマまマむムいイまマでデしシ心ココロとトあアりリさサぬヌをヲ見ミ  
るル。子コとト思シひヒ。親オヤとトらラうウくク。一イツ。夫婦フウフとトなナまマ  
ひヒねネくク。つツらラ。欲ヨク多タくク。力チカラとトあアりリ。命イノチとトわワけケ  
あアらラうウひヒとト人ヒトにニ愚オロシ癡チなるルゆユへヘ。人ヒトよりリもモ月ツキ  
さサうウてテとトまマるルべベしシ

子コとト思シひヒ親オヤとトらラうウくク。莊シヤウ子コニニ虎コ狼ロウ仁ニ。虎コ狼ロウハハササハハニニアアルル父フ子シ喰ク合カフフヲト世セ  
然シカニニ死シヤヤ其コノ餘ノ鳥ト歎ナゲチチ夜ヨノノ鶴ツルノノ子コヲト思シヒヒ巴ハ徠ライノノ勝カチヲト羊ヨウノノ蹄ヒヲト乳ニヲト三サン鳥トノノ哺ボヲトガガス  
類ノ是コノ皆ハ鳥ト歎ナゲチチ子コヲト思シヒヒ親オヤヲトもモスス證シ據キナリ。  
まマまマむムいイまマでデしシ畜物論チクブツロン猿サノノ徠ライ徠ライノノ雌メトト麋ミ鹿カトト鱈タラハハ魚イサトト遊ユブブトトアアリ  
詩シ周シユ南ナンハハ斯シノノ妬ニ心シンセセズズトト七シチハハ其コノ餘ノ餘ノ可カ知チ



うきうきうきうきとあり。命をうごかす。ついでに  
 ついでにうきうきとあり。命をうごかす。ついでに  
 見せて。慈悲の心ありんか。倫あり。あま  
 い段尤有情ヲ見ス仁心ヲ可發ラセ  
 實も。歎  
 是れ。慈悲の心ありんか。倫あり。あま

顔回 孔子三千七十高才也。亞聖ト云セラ  
 顔淵曰頭。無伐善。無施勞。朱注。勞。勞事  
 也。勞。非已。所欲。故。又不欲施之於人。  
 兩説。ア。尼兼好ノ心。此注ヲ用ユ

顔回ハ志人ノ勞トカ  
 是れ。兼好ノ辭  
 唐ノ字ヲ。五カ。ハ。ヨリ。セ。ル。心。ナリ

子とて。禅録。賺維。去語アリ

若物と志人あり。若物と志人あり。若物と志人あり。

心あり。素門云。百病生ス。心あり。素門云。百病生ス。心あり。素門云。百病生ス。

人の心あり。素門云。百病生ス。心あり。素門云。百病生ス。心あり。素門云。百病生ス。

心あり。素門云。百病生ス。心あり。素門云。百病生ス。心あり。素門云。百病生ス。

心あり。素門云。百病生ス。心あり。素門云。百病生ス。心あり。素門云。百病生ス。

よりうく。外より果家やまじハなしくちや。茶と  
のこて汗<sup>アセ</sup>成りともゆるら。志家一なまじりあ  
ぢ。一目<sup>ミタ</sup>をぢちをそめ、半あきばるる汗<sup>アセ</sup>を  
流<sup>ナゲ</sup>せ。心のーいざなりといふるを流<sup>ナゲ</sup>せ。凌<sup>レイ</sup>  
雲<sup>ウン</sup>の顔<sup>ガハ</sup>と書<sup>カキ</sup>て白頭<sup>ハクダウ</sup>の人となるるあり。な  
まじりあせり

凌雲竈 三國史云魏ノ明帝立凌雲觀<sup>ウツク</sup>誤<sup>アヤマ</sup>先<sup>マ</sup>針<sup>ハネ</sup>樓<sup>トウ</sup>乃<sup>ノ</sup>坐<sup>マ</sup>龍<sup>リウ</sup>盛<sup>セイ</sup>年<sup>ネン</sup>誕<sup>タ</sup>轅<sup>エン</sup>軛<sup>キョク</sup>引<sup>ヒキ</sup>止<sup>トメ</sup>書<sup>シ</sup>  
去<sup>キ</sup>地<sup>チ</sup>二十五丈既<sup>イ</sup>下<sup>カ</sup>鬚<sup>シュ</sup>髮<sup>ハツ</sup>皓<sup>コウ</sup>然<sup>ゼン</sup>還<sup>ヘン</sup>語<sup>ゴ</sup>子<sup>シ</sup>才<sup>サイ</sup>直<sup>チキ</sup>絶<sup>ケツ</sup>此<sup>コノ</sup>法<sup>ホウ</sup>  
○此段幼稚ノ者ヲラドレ真スル仁愛ナキヲ速ニ次ハ人ノ体ヲ破ルリ心ヲクハルルハ却テ重キ罪  
ナルヲ戒ム  
我カをゆるしてカヲ取レ人ヲ先ニト  
云、礼讓ノ道也九ノ此ナルト云、聖人重  
キ教クセバ克<sup>キ</sup>王<sup>オウ</sup>ノヲ允<sup>イン</sup>恭<sup>クウ</sup>克<sup>キ</sup>讓<sup>ニョウ</sup>  
ルト虞<sup>オ</sup>ノ代<sup>ダイ</sup>史官<sup>シコウ</sup>ハル孔子<sup>コウジ</sup>ノ御德<sup>ゴトク</sup>温良

物<sup>モノ</sup>はあせりそつね。己<sup>ミ</sup>と相<sup>アイ</sup>  
て人<sup>ヒト</sup>はあせりそつね。我<sup>ワレ</sup>カを

恭儉讓子貢<sup>コウケンニョウシコウ</sup>美<sup>ミ</sup>之<sup>シ</sup>然<sup>シカ</sup>ハ我身<sup>ワレミミ</sup>ヲ  
謙<sup>ケン</sup>ノ人<sup>ヒト</sup>先<sup>マ</sup>スル処<sup>トコロ</sup>人<sup>ヒト</sup>難<sup>ナガシ</sup>キ行<sup>ユク</sup>処<sup>トコロ</sup>可<sup>カ</sup>謹<sup>キン</sup>  
まは、くん。義<sup>ヨシ</sup>の遊<sup>ユウ</sup>びほも勝負<sup>シヨウブ</sup>とこめむハ勝<sup>カチ</sup>て  
與<sup>ヨ</sup>河<sup>カ</sup>ん<sup>ン</sup>み<sup>ミ</sup>か<sup>カ</sup>り<sup>リ</sup>。然<sup>シカ</sup>ハ人<sup>ヒト</sup>ヲ先<sup>マ</sup>スル非<sup>ヒ</sup>道<sup>ドウ</sup>  
あろつぶ。されバ。勝<sup>カチ</sup>ラカラミレハ向<sup>ムカ</sup>ノあ<sup>ア</sup>子<sup>シ</sup>ハ負<sup>マケ</sup>テ負<sup>マケ</sup>テ負<sup>マケ</sup>テ推<sup>オシ</sup>置<sup>メ</sup>セラルル  
又<sup>マタ</sup>志<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>し<sup>シ</sup>り。我<sup>ワレ</sup>負<sup>マケ</sup>テ人<sup>ヒト</sup>とよ<sup>ヨ</sup>ら<sup>ラ</sup>こ<sup>コ</sup>り<sup>リ</sup>めんと  
思<sup>オモ</sup>ふ。又<sup>マタ</sup>う<sup>ウ</sup>あ<sup>ア</sup>そ<sup>ソ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>の真<sup>マコト</sup>ち<sup>チ</sup>る<sup>ル</sup>人<sup>ヒト</sup>は<sup>ハ</sup>わ<sup>ワ</sup>い<sup>イ</sup>ち<sup>チ</sup>く  
思<sup>オモ</sup>つ<sup>ツ</sup>せ<sup>セ</sup>。あ<sup>ア</sup>心<sup>シン</sup>を<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>こ<sup>コ</sup>ま<sup>マ</sup>ん<sup>ン</sup>み<sup>ミ</sup>は<sup>ハ</sup>ま<sup>マ</sup>じ<sup>ジ</sup>り  
む<sup>ム</sup>つ<sup>ツ</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>た<sup>タ</sup>中<sup>ナカ</sup>に<sup>ニ</sup>あ<sup>ア</sup>り<sup>リ</sup>ま<sup>マ</sup>じ<sup>ジ</sup>り<sup>リ</sup>。人<sup>ヒト</sup>を<sup>シ</sup>ら<sup>ラ</sup>り<sup>リ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>じ  
じ<sup>ジ</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>て<sup>テ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>じ<sup>ジ</sup>り<sup>リ</sup>乃<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>じ<sup>ジ</sup>り<sup>リ</sup>と<sup>ト</sup>思<sup>オモ</sup>ふ  
え<sup>エ</sup>又<sup>マタ</sup>礼<sup>レイ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>じ<sup>ジ</sup>。ま<sup>マ</sup>じ<sup>ジ</sup>り<sup>リ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>じ<sup>ジ</sup>と<sup>ト</sup>思<sup>オモ</sup>ふ

うりて。ち... 親交ノ間は... 遺恨止  
これあつて... 其の... 失なり。人... 思つて。人... 若くは... 利...  
○此段世ニ交ル者、礼讓ノ心ヲ知テ自ラ謙退スルヲ教末又學問ヲ善ホコト自巳ノ分ヲ  
人多ク此皆學ノカ  
其ニキフナク悪ム処不美ヨリ大ナクナケバスモカニ官ヲ去リ利ヲ捨テ自ラ潔クスル人古今其  
人ノ好ム所富貴ノニツテ人ノ悪ム處又貧賤  
ニツテセシテ學問ヲシテ義ヲ知ル好ム處義ヨリ  
論語ニ願ハシトシ  
論語ニ願ハシトシ  
論語ニ願ハシトシ

貧者ハ賤とて礼

得レ依テ其ノ失ヲ改メ教フ曲礼云貧者  
不以貨賤礼老者不以筋力礼  
と云... 是ヨリ上ノラコト  
老る者ハ力とて礼  
及ぶ... 貧者財ヲ不用ラツリ老人ノ衣履是ハケルニ  
向ク人ノ不  
なり。知と志...  
と云...  
鳥羽作石 洛陽ノ南ナリ鳥羽及ト白河院  
應徳三年被立御西名ナリ仙洞ナリ此  
ノ所ニ被立テ以後ニ以テ作スルニ云おま  
タレモノゾト世人心得ル儀テ古来鳥羽作道  
云々ナル由ヲ顯ス  
元良親王 陽成院才ノ皇子ニ高兵部卿  
親王ト申也  
元日葵賀 元朝辰ノ刻ニ天皇大極殿

元良親王元日葵賀

行幸凡時群臣門入テ再拜ス此時奏賀奏瑞ニテ二人ノ者庭上ニ立並テ祝申事ナリ是去年國ニ災世ニ吉祥ト書集テ今日奏申

大極殿 拾遺云ク大極殿朝堂院。名八節院。天子臨時即位諸司告朔所。又謂之中堂。

李部王 延喜御ニ式部卿重明親王。直ノ躰ニテ記録ヲ李部王。記ト号ス。吏部ニ式部ノ異名也。吏部李部音通ス。故ニ用ユ。

孔子東首 論語曰疾。君視之。東首加朝服。搢紳。朱注云東首以受生氣也。陳氏云天地生氣。始於東方。

孔子東首 論語曰疾。君視之。東首加朝服。搢紳。朱注云東首以受生氣也。陳氏云天地生氣。始於東方。

孔子東首 論語曰疾。君視之。東首加朝服。搢紳。朱注云東首以受生氣也。陳氏云天地生氣。始於東方。

孔子東首 論語曰疾。君視之。東首加朝服。搢紳。朱注云東首以受生氣也。陳氏云天地生氣。始於東方。

孔子東首 論語曰疾。君視之。東首加朝服。搢紳。朱注云東首以受生氣也。陳氏云天地生氣。始於東方。

孔子東首 論語曰疾。君視之。東首加朝服。搢紳。朱注云東首以受生氣也。陳氏云天地生氣。始於東方。

聲もあつて。殊矯りて

大極殿より。も羽の他を

まげて。ええけり。うし。李

部王の。記。よ。傳。り。と。わ

湯気。と。う。く。へ。ま。い。り。

孔子も。東首。一。強。り。

孔子も。東首。一。強。り。

孔子も。東首。一。強。り。

孔子も。東首。一。強。り。

伊勢カハ南なり。大非宮此所方と此路よせさせ

強き。う。い。と。と。人。尸。多。り。さ。一。大。非。宮。乃。是。也。

ハ。一。段。天。子。御。枕。ノ。方。角。ヲ。記。ス。

ハ。一。段。天。子。御。枕。ノ。方。角。ヲ。記。ス。

ハ。一。段。天。子。御。枕。ノ。方。角。ヲ。記。ス。

ハ。一。段。天。子。御。枕。ノ。方。角。ヲ。記。ス。

ハ。一。段。天。子。御。枕。ノ。方。角。ヲ。記。ス。

ハ。一。段。天。子。御。枕。ノ。方。角。ヲ。記。ス。

ハ。一。段。天。子。御。枕。ノ。方。角。ヲ。記。ス。

がく鏡とたそられてよよむにさうぶらう人  
 さまじうるまらう。佛堂の法をあげりあ  
 ひて（モリ）居らると空傳（前）法華堂（兼）判我形ノミナキヲ知リ名ヲ美公  
 是ヨリト反ス  
 一ひものうへとのまぢのうて  
（他）ノテカミラ見レ己ノ尺ヲ忘ルハ昔人ノ  
 定本直カラシテハ向物ノ曲直ハカク難シ  
 論語曾子曰吾日三省我身ト云モ心ナリ  
 我知レ己ヲ知ラテ逐一モツラ  
 我知レ己ヲ知ラテ逐一モツラ  
 心のおろかなるもいふ薙云のつらな  
 れともさくびの才の較ちぬともちと年の老  
 めるともちと病のちとすともさくびの死のち

きりりともさくび。初ふたのいつらさるともさくび  
 才の上の非ともさくび。海は外のものさくびともさ  
（見ヨリ）日向自各ナリはノ我ガヲ知ヌ人ノ云也  
 らは。但しつらに鏡よるる年ハくそへてさる。我方の  
 事さくびぬまある福也。まべたこのなされべ。さ  
（或）ノフテ何ヲ證拠ト見ルキナレバ知ラスニ似タリ。是ヨリカク答ク  
（見）レハ知ラヌ人ノ辞也  
 ひはりのせともさくび。さくび。ちとさくびともさくび  
（お）ノ薙云ニ應  
 ちんそやうてさくびさるる老ぬともさくび何ぞさくび  
（世）ノ道ヲ安楽トメテ  
 ちんそやうてさくびさるる。ちんそやうてさくびさるる  
（此）ノ行ノラロトナリト知ラバイカテ其ノ思フゴトクニツトメザルゾトス  
 茲と云ふ事。茲はあはさるるもて人の愛樂せず  
（書）大禹謨云念茲在茲トス  
 形乃んよんて

（奥）ニ十七世人慶在之也。云は右ヨリ本テ交ル也

くればして出づるを知らずして。大老の御座り  
不<sup>ツ</sup>堪<sup>カ</sup>乃<sup>ガ</sup>藝<sup>ガ</sup>と<sup>リ</sup>ち<sup>レ</sup>て<sup>ト</sup> 堪<sup>カ</sup>能<sup>ク</sup>の<sup>座</sup>よ。此<sup>ノ</sup>老<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>知<sup>ル</sup>身<sup>ノ</sup>安<sup>ク</sup>世<sup>ニ</sup>云<sup>ハ</sup>座<sup>ニ</sup>  
並 此<sup>ノ</sup>老<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>知<sup>ル</sup>身<sup>ノ</sup>安<sup>ク</sup>世<sup>ニ</sup>云<sup>ハ</sup>座<sup>ニ</sup>

らまをいさぐさそとらひたり。人まをいさぐさ  
並 此<sup>ノ</sup>老<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>知<sup>ル</sup>身<sup>ノ</sup>安<sup>ク</sup>世<sup>ニ</sup>云<sup>ハ</sup>座<sup>ニ</sup>

あつては思ふ人。婿のあつては思ふ人  
此<sup>ノ</sup>老<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>知<sup>ル</sup>身<sup>ノ</sup>安<sup>ク</sup>世<sup>ニ</sup>云<sup>ハ</sup>座<sup>ニ</sup>

うにあらうともいふ。うにあらうといふ

資未<sup>ナ</sup> 正二位大納言<sup>ノ</sup>揚梅<sup>ノ</sup>法名<sup>ト</sup> 具代<sup>ト</sup> 後三位宰相中将長中<sup>ノ</sup>院<sup>ト</sup>

資未<sup>ナ</sup> 正二位大納言<sup>ノ</sup>揚梅<sup>ノ</sup>法名<sup>ト</sup> 具代<sup>ト</sup> 後三位宰相中将長中<sup>ノ</sup>院<sup>ト</sup>

えきる人。具代宰相中おろあひて。らぬ  
吾主  
いふれれば具代宰相中おろあひて。らぬ  
資未<sup>ナ</sup> 辞  
あつては思ふ人。婿のあつては思ふ人  
此<sup>ノ</sup>老<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>知<sup>ル</sup>身<sup>ノ</sup>安<sup>ク</sup>世<sup>ニ</sup>云<sup>ハ</sup>座<sup>ニ</sup>

人の借借とまうけらるべしとさうめて。おまは  
てりあえせうきとらるるに。具成おさなぐり  
まあひひ結まじと心あしめ事作り。むすのま  
ひまやうまのよめさ。ちかづがまじりくま  
どうと事ハつちる心まじりんまじりんと  
れけりよ。大納言入居つとつゆりて。されはま  
となれはつちもあつていられけあを。興成  
れあきるはあつてゆくと。まじりとさうのま  
とさうまじつとまされれだ。大納言入居員  
なりて不潔のまじりくせうまじりけりとを

前段前段ノ我身ヲ知ラヌ夫ヲ承テ云々必ス如此ノ失アルヲ戒ム

前段上同  
あつたげ。故法皇ハ清あるまじりひて借  
清のまじりけるよ。今より清のまじりける  
字も功績もまじりて。まじりて。まじりて。ま  
草よのまじりて。あつてまじりて。まじりて。ま  
りあつてまじりて。まじりて。まじりて。ま  
六条右内府 内府ハ内大序ナリ後一位内侍  
有房 村上天皇ノ御末六条ノ左中将有通  
息 和漢才人。能書  
あつてまじりて。まじりて。まじりて。ま  
土偏 塩ノ俗字ナリ 鹽ノ正字ハ 韻會  
鹽ノ余廉反説文ハ 鹵監ノ古者風沙初

本段

作<sup>レ</sup>考<sup>ル</sup>海<sup>ノ</sup>鹽<sup>ヲ</sup>徐<sup>カ</sup>回<sup>ク</sup>黃<sup>帝</sup>ノ臣<sup>也</sup>

徒然草

うりきれバ其ノ内所木<sup>ノ</sup>のむらさき

にあ<sup>り</sup>りれ助語うりきれうりきれうりきれ

とよこ ドット笑<sup>フ</sup>く八雲<sup>ニ</sup>響<sup>ク</sup>より

秋菽<sup>ニ</sup>ウラヒレラハ足引<sup>ノ</sup>山下<sup>ニ</sup>鹿<sup>ノ</sup>鳴<sup>ク</sup>

まふのうりきれけり  
うりきれうりきれ  
うりきれうりきれ

徒然草 詠解卷三終



